

Hatt. として記載した。したがってアジアには *F. dilatata* 群に *F. subdilatata* ならびに *F. dilatata* subsp. *asiatica* が認められる。

□Romans, R. C.(ed.): **Geobotany II**, pp. 263. 1980, Bowling Green State Univ. Ohio. 植物学, 化石学, 花粉学, 地理学などの研究者が, 植物地理について行なった研究会での報告をまとめたもので, 11の論文と4つの抄録が現在から古生代への順に並べて載せられている。色々の内容のものがあるが, 主に化石植物や花粉をとうして北アメリカの植物の変遷をとらえようと試みたものである。ミシガン周辺での花粉分析から *Fagus grandiflora* や *Pinus strobus* が過去一万年の間にどのようなルートを経て移動が行なわれたかといったことや, オレゴン州で過去一万年の間にどのような植生の変遷があったかなどが報告されている。興味深いのは北アメリカの100地点の花粉分析をもとに過去4万年, 2.5万年, 1.8万年, 1.4万年, 1万年, 5千年, 200年前の北アメリカの植生図を画いていることである。このような仕事は膨大な資料とその細心な解析が必要だと思うが, 面白い試みである。古い時代のものでは, デボン紀から下部石炭紀に現われ, 原裸子植物として最近注目されている *Archaeosperma* や *Gnetopsis* などの cupule が枝からどのように分かれるかを調べて3つの型があることを報告している。cupule 自体の構造を述べたものではないが, この植物群の構造も次第に明らかにされつつあることがわかる。

(山崎 敬)

□Johansen, H. W.: **Coralline algae, a first synthesis**. 239 pp. 1981. CRC Press Inc., Florida. ¥26,330. 紅藻サンゴモの研究の一大総説である。サンゴモ科植物は体に多量の石灰を沈着する特異な性状をもつことで古くから植物学者の興味をひいたが, また化石として産出すること, サンゴ礁構築に主要な役割を果たすことなどから, 地質学者や海洋学者の興味もひいた。さらにいわゆる磯焼けの原因生物であろうとも考えられ, この点からしばしば水産学者の研究の対象ともなった。著者は異なる学問分野で挙げられた研究成果をよく読破し, 形態と構造, 石灰化, 地理的分布, 生育と環境, 生産力, サンゴ礁の構築, 化石, 分類など, 12章にそれらの成果を要領よく纏めた。巻末には1979年までの500に及ぶ引用文献が掲載され, さらにサンゴモ科の43属についてそれぞれ基準種, 主要形質および主要文献が抄録される。海におけるサンゴモの役割の重要性の認識が高まっている折柄, 時宜を得た労作である。

(千原光雄)